

こちら航空宇宙推進室 ニュースレター

「宇宙の映画館」を開催しました

1月7日、JAXA大樹航空宇宙実験場の格納庫シャッターを日本最大級のスクリーンとして使用し、一夜限りのドライブインシアター「宇宙の映画館」を開催しました。

主に大気球実験など宇宙関連実験で使用されているJAXA格納庫を観光として活用するのは初の試みです。縦17メートル幅30メートルのスクリーンに、JAXAやインターステラテクノロジズ社などの協力団体のPR動画のほか、米国映画「アポロ13」を上映しました。

当日は町内を含む十勝管内や札幌、東京など道内外の94名（45台）にご来場いただきました。

満天の星の下、巨大スクリーンで見る大迫力の映像を体験いただき、参加者からも大好評のイベントとなりました。



IST社 帯広市に支社を開設します

インターステラテクノロジズ社は2024年夏ころ、事業拡大のため、帯広支社を開設することを発表しました。支社としては東京、福島に続く3か所目、研究開発拠点の室蘭技術研究所（室蘭工業大学内）を含めると4拠点目となります。

帯広支社の設置は、開発中の小型人工衛星ロケット「ZERO」初号機打ち上げに向けた製造・試験の本格化に合わせ、町内の本社工場の生産機能の補完と、手狭になっている本社オフィスを拡張することが目的です。

建物は旧物流倉庫を借り受け、2024年1月から改装工事を経て、同年夏ころの稼働開始を予定しています。

1階はエンジンや機体の胴体部分の組み立てや保管をする製造拠点、2階には50名ほどの規模のオフィスを設けます。帯広支社で製造された部品は、本社工場に運び、各種試験や最終組み立てを行います。



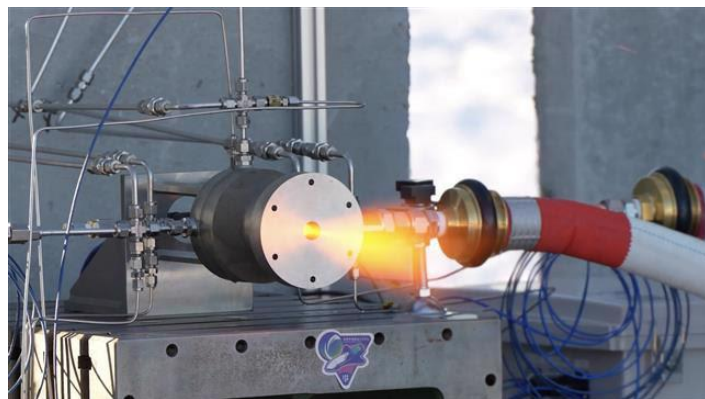
完成イメージ

将来宇宙輸送システム 燃焼試験に成功

将来宇宙輸送システム株式会社は12月19～20日、北海道スペースポート（HOSPO）内の滑走路で、同社初となる小型ロケットエンジンの燃焼試験を行いました。

将来宇宙輸送システムは水素、メタン、酸素の3種類の推進剤を使い分けるトリプロペラント方式を用いることにより、燃焼効率を向上させることで機体の軽量化を目指しています。

試験は成功し、トリプロペラント方式のエンジン燃焼試験の成功は日本初となります。



北海道の総合防災訓練をHOSPOで実施しました

北海道庁による総合防災訓練が12月19日、大樹町内で行われ、北海道スペースポート（HOSPO）ではドローンによる沿岸の撮影訓練が実施されました。

訓練では巨大地震による大津波が発生したことを想定しました。陸上自衛隊と国土交通省北海道開発局のドローンがHOSPOの滑走路から飛び立ち、町の沿岸を撮影し、映像の伝送に関わる訓練等を実施しました。



都庁で銀河連邦物産展に出展しました

1月11日、12日に東京都庁で開催された「銀河連邦PR物産展」にタイキ共和国として出展しました。銀河連邦はJAXA施設の立地が縁となり、35年以上にわたって友好都市交流を続けている組織です。都庁の全国観光PRコーナーを会場に、銀河連邦7市町※の観光PRやパンフレットの配布のほか、各共和国の特産品を販売しました。タイキ共和国からはチーズとホエー豚を販売しました。

観光客や都庁の職員など多くの方に立ち寄っていただき、町の名産品をPRすることができました。

※銀河連邦：大樹町・秋田県能代市・岩手県大船渡市・宮城県角田市・神奈川県相模原市・長野県佐久市・鹿児島県肝付町

